



《ニュース》

■第6回遺跡発表会を開催しました。

7月20日に行いました「第6回遺跡発表会」は用意した席が足りなくなるほど盛況でした。



小林達雄教授の特別講演

特に、環状盛土遺構を基調に縄文の社会についてお話いただきました國學院大學の小林達雄教授による特別講演「縄文人の記念物」は、「現在を省みるのにとっても参考になる。」など、参加者の多くの方によるこんでいただきました。

■二つの遺跡で現地見学会をおこないました。

今回誌面で紹介している佐倉市江原台遺跡（8月17日）と成田市台方下平Ⅱ遺跡（8月24日）で現地説明会を行いました。どちらの説明会も地元はもとより県外から見学にいらっしやるほど熱心な方々が多く集まりました。



江原台遺跡現地説明会



台方下平Ⅱ遺跡現地説明会

《ご案内》

最新の発掘調査成果を展示する「最新出土考古資料展」を当センター考古資料展示室において開催しています。第6回遺跡発表会で発表された佐倉市井野長割遺跡、大篠塚西台2号墳、本埜村瀧水寺裏遺跡に加え、富里市古込V遺跡（旧石器時代：富里市教育委員会蔵）の資料も展示されています。多くの皆さんの見学をお待ちしております。なお、見学は無料です。展示期間は年内です。

《発掘中の遺跡》

10～1月予定

＜成田市＞

台方下平Ⅱ遺跡（弥生～奈良・平安時代）
南圃護台遺跡第3地点（奈良・平安時代）

＜佐倉市＞

宮内井戸作VI遺跡（縄文時代）
江原台遺跡（縄文時代、奈良・平安時代）
大蛇中芝遺跡（古墳～奈良・平安時代）
内田端山越遺跡（縄文時代、奈良・平安時代）

＜四街道市＞

木戸場遺跡（縄文時代）
前原No.2遺跡第1地点、第2地点（旧石器時代、縄文時代、中世）

《室内作業》

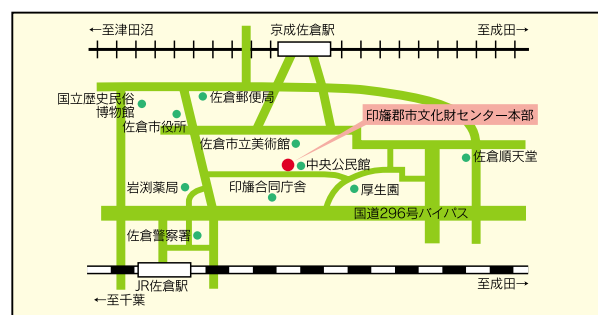
＜本部＞

佐倉市鑄木町198-3 TEL 043-484-0126
南三里塚宮原第1遺跡（成田市、旧石器時代）
上志津干場遺跡（佐倉市、奈良・平安時代）
生谷松山遺跡（佐倉市、縄文時代）
南作遺跡（四街道市、縄文時代、奈良・平安時代）
権現堂遺跡（四街道市、弥生時代～中世）
浮矢遺跡Ⅰ（四街道市、奈良・平安時代）
笹目沢遺跡Ⅱ（四街道市、奈良・平安時代 近世）
新地第2遺跡（八街市、古墳時代）
瀧水寺裏遺跡（本埜村、旧石器時代、縄文時代）
向台・宮前遺跡（栄町、古墳時代～奈良・平安時代）

＜成田事務所＞

成田市飯仲字台畑330-1 TEL 0476-26-7208
成田市出土品整理（成田市）
成田市内遺跡整理（成田市）

※上記の発掘現場、室内作業は見学できますが、都合によりご期待に添えない場合もありますので、必ず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを！



がんばってます！

こつちもやってます！

平成14年10月25日 043(485)9871 043(484)0126(代) 〒285-0025 千葉県佐倉市鑄木町198-3 発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター

FIELD BOOK



和同開珎（実物は直径2.4cm）

江原台遺跡は、印旛沼と鹿島川の支谷によって形成された標高約25mの台地上に位置しています。今年6月から国立佐倉病院の敷地の一部を発掘調査し、現在までに縄文時代中期の竪穴住居跡9軒と土坑約200基、弥生時代後期の竪穴住居跡2軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡約50軒、掘立柱建物跡10棟、その他溝状遺構などが検出されました。



24号（手前）・28号竪穴式住居跡完掘状況

今回の調査で24号竪穴住居跡から「和同開珎」と呼ばれる古代のお金が出土しました。古いお金といわれると銭形平次で有名な「寛永通宝」や大判小判などを頭に思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。しかし「和同開珎」はそれらよりもずっと古く、奈良県の飛鳥池遺跡で「富本銭」が出土するまでは律令国家が発行した最古の銭貨とされていました。奈良時代から平安時代にかけて和同開珎を含め12種類の銭貨が発行され、それらは皇朝十二銭と呼ばれています。

和同開珎は708年（和銅元年）から鑄造が開始され銀銭と銅銭の2種類があります。今回出土したのは銅銭で千葉県内では11遺跡13枚目（木更津市笹子城跡や市原市上総国分僧寺跡などで出土しています。）の出土例となり大変貴重な成果であるといえます。

奈良・平安時代の江原台遺跡は約250軒の竪穴住居と50棟を超える掘立柱建物などが立ち並び、また過去の調査で瓦塔（三重塔や五重塔を模した小塔）が出土していることから集落内に寺院を有していた可能性がある大集落であったことが判ります。今回の和同開珎だけでなく過去の調査でも、皇朝十二銭の神功開宝（初鑄年765年）1枚と富寿神宝（初鑄年818年）が2枚出土しています。これらのことから、奈良・平安時代の江原台遺跡は印旛沼周辺では最大級の遺跡であり、永い年月にわたり郡衙など役所と密接につながっていたのではないかと考えられます。



発見!

成田市台方下平Ⅱ遺跡



竪穴住居跡 (76号住居跡)



総柱建物群跡



「八代」と墨書された土器



須恵器高盤



作業風景

台方下平Ⅱ遺跡は印旛沼の東岸、JR成田駅西口から西に延びる目抜き通りの突当りから谷を挟んだ、北総地帯特有の狭い舌状台地上に立地します。

本遺跡では縄文時代の竪穴住居跡や陥し穴なども検出されていますが、中心となる遺構は古墳時代後期～奈良・平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡です。現在までに竪穴住居跡が約130軒、掘立柱建物跡が約70棟検出されていて、今後の調査によりさらに増えることが予想されます。

本遺跡は古墳時代後期の竪穴住居跡と掘立柱建物跡が台地全面に建てられるのに対し、奈良・平安時代になると竪穴住居跡は台地縁辺に多く建てられ、掘立柱建物跡は台地中央の平坦面に集中して配置されるようになります。中でも建物の方向を南北に揃えL字状に整然と配列された掘立柱建物群跡は、側柱だけでなく建物の内側にも柱を備えるという堅固な総柱建物と言われるもので倉庫群と考えられます。また、倉庫群を避けて竪穴住居跡が造られているので、土地利用も計画的になされていたようです。これらの倉庫には、村全体の大切な物資が保管されていたのかもしれません。

竪穴住居跡からは、日常生活に欠かせない土師器・須恵器という土器が多く見つっています。現代の茶碗・皿に当たる坏、煮炊きに使用する甕、蒸し器に当たる甑などの他に、祭祀にも使用される高坏なども出土しています。また、茨城県や東海地方で生産された須恵器や、当時の都周辺で作られた畿内産土師器も見つっています。

特に注目される遺物として、「八代」という文字の書かれた墨書土器が挙げられます。平安時代に編さんされた『和名類聚抄』によると「八代」とは印旛郡内の地名であり、今でも本遺跡の周辺に「八代」と呼ばれる地区があります。この墨書土器は古代の「八代」と

現在の「八代」を位置的に一致させる新発見といえるでしょう。土器類の他には鉄製の鎌・刀子・鋤先や製鉄に使用したフイゴの羽口、糸を紡ぐ紡錘車、勾玉や千葉県・茨城県に多く出土する土玉などもあります。

古代において印旛沼は手賀沼や霞ヶ浦、また鬼怒川などと繋がり、さらに太平洋に注ぐ広大な内海である「香取海」を形成していました。元来、香取海周辺はその恵まれた地理的条件より広範囲での交流がおこなわれていました。畿内の中央政権により律令体制が整備されると、さらに東北経営の重要な拠点と成る政治的な役割も果たした地域でした。そのため古代の成田には在地の人だけでなく、さまざまな地域の人や物資が

行き交う交通や経済の要衝でもあったのです。茨城産や東海産の須恵器、さらには都や古代の役所で多く発見される畿内産土師器などが出土するのはそのためでしょう。

現在の成田は国際空港があり、世界中のさまざまな国の人が行き交う文化交流の盛んな国際都市で、計画的な街づくりが進められています。同じように、古代成田の台方下平Ⅱ遺跡においても香取海を隔てた茨城県や律令国家の中核であった畿内の人々と盛んに交流し、刺激あいながら計画的な村づくりをして暮っていたのでしょう。

空から見た台方下平Ⅱ遺跡

